

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年4月8日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4694500051
法人名	医療法人 健育会
事業所名	グループホーム みんなの家
所在地	鹿児島県姶良市西餅田139番地4 (電話) 0995-66-2541
自己評価作成日	平成30年2月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成30年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・あなたの思いを聞きながら、いつまでも健やかで安心した暮らしが出来るように寄り添います。

・私たちは家庭的な温もりの中で、一人ひとりが有する力に応じた役割(洗濯干し・畳み、菜園、調理)等を持ち続ける事が出来るように支援します。

・母体が併設された医療法人のため、日常の健康管理や緊急事態が生じた時は主治医との連絡も早くとられ、御家族にも安心を得ています。

・これからも、地域の行事の参加や交流を持ちながら、思い出がある馴染みの関係が途切れないように支援していきます。

・当ホームの母体が医療機関で隣接しているため、毎日の往診や24時間医療連携体制が整っており、健康管理が徹底され、職員も家族も安心感がある。

・玄関付近に菜園があり、ゴーヤやきゅうりなど旬の野菜類やスイカやメロン等の成育過程で喜びを感じ、収穫が楽しみとなっている。

・利用者の持てる力を活かしながら高菜やらっきょう漬けなど保存食作りやそば打ちなどを行っている。

・管理者や職員は理念に基づき「家の雰囲気味わってもら」「季節を感じてもら」など、生活感を重視し、家族や地域の方とのつながりを大事にしながら支援している。

・管理者は職員の提案について、「まずやってみよう」と考えで関わり、職員の意欲向上に繋がっている。

・利用者のこれまでの生活歴をゆっくり聞き取りしながら、絵やイラスト入りのパネルを作成し、家族から喜ばれている。家族はホームだよりを1冊のファイルにして大切に保存している。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	施設内に掲示し、朝・夕の申し送り時に唱和を行い、全職員の意識づけと理念に向けての方向の統一を目指している	理念は玄関やホールなどに掲示し、パンフレットにも掲載している。朝夕申し送り時に唱和し、ミーティング時にケアの振り返りを行って、理念に沿ったケアの実践に努めている。毎月理念に基づく努力目標を設定し、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関わりを継続するために自治会に加入している。また、日常的に利用者の散歩時や外気浴時には 挨拶や会話を交わし交流を行っている。	自治会に加入し、いきいきサロンに参加したり、地元の商店や美容室の利用・散歩時に挨拶するなど、地域住民と交流している。ボランティアや研修生を受け入れたり、いきいきサロンの講師を務めている。住民から野菜等の差し入れもある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	キャリア教育支援等の研修生を受け入れ、実習の場を提供している。認知症への理解についての勉強会や軽体操など要望に応じ地域に出向いている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進委員会(家族・行政・地域の代表)等に参加を促し、6/年回行われている。グループホームの運営状況の報告と意見交換や参加者の要望に応じた勉強会(GHにおける事故・緊急時の対策)等をおこなっている	定期的に会議を開催し、利用者の状況や活動報告・ヒヤリハットなどを報告している。出された意見からテーマを設定し研鑽している。利用者個別の対応を心がけ危険防止に努めるなどサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険(更新)や他保険者からの入所に関わる相談や推進委員会でも現場の実情や取組みを報告し助言を得るようにしている。	市担当者とは電話での相談や直接窓口に出向くなど積極的に関わり協力関係を築いている。市主催の模擬訓練の集団指導に見学参加したり、管理者は年に2～3回始良伊佐グループホーム協議会にも参加し情報を共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについては定期的に勉強会を行い、もたらず弊害を理解している。また言葉を遮るや行動の抑制は出来る限り行わないようにしている。家族の理解をもとめ、離脱防止や安全面のため玄関には、施錠行っている。	ミーティング後に事例に基づき資料を提示し勉強会を実施している。職員は言葉遣いやコミュニケーション時の姿勢に気をつけたり、利用者の行動特性を把握して対処するよう心掛けている。帰宅願望傾向の利用者に対して職員と散歩するなど、玄関の施錠はできる限り開放を心掛けている。中庭は自由に往来できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で開催される勉強会や事業所で行う勉強会で全職員が高齢者虐待の意味を理解し虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員の勉強会等で全員が制度の理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所契約は、利用者や家族に契約書を詳しく説明し質問を受け理解を得て署名・捺印をもらっている。解約や改定においても個別に説明と承認を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進委員会に家族参加を行う事で要望や意見等を伺う機会を作っている。また、面会時やカンファレンスなど家族との面談の機会を多く持ったり、家族が意見を多く出しやすい雰囲気作りにも努めている。出された要望等は必要に応じて職員間で共有し対応している。	利用者からは日々の関わりの中で、思いを把握している。家族からは面会時や敬老会や母の日の行事時に家族交流会を設け意見や要望を聞いている。ホームだよりでも、それぞれの利用者の状況を報告し、意見や要望を聞いている。口腔ケアについてや食事と体重のコントロールについての要望等があり、職員間で話し合い対応している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや日頃の会話の中で職員の意見を聞き必要に応じ取り入れ運営に反映している。	月1回のミーティングや日々の関わりの中で職員の意見や提案を聞いている。職員間と管理者とのノートがあり、管理者はノートから対応している。日々の相談でも解決できるよう関わっている。提案で利用者の誕生会に絵やイラスト入りのパネルを作成し、本人や家族から喜ばれた事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は管理者や職員の努力や勤務状況を十分に理解しており働きやすい環境面や労働時間にも配慮をえている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や事業所・法人内研修等の参加を行い、知識の習得や実務者研修等など、働きながら資格取得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	始良伊佐GH協議会に加入し研修の参加等で同業者との交流の機会を持ちながら意見の交換を行っている。外部研修においても、意見交換等も行われ職員の意識づけやサービスの向上に役立っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族との面談を行ったりし、信頼関係を築くようにしている。また、生活歴・状況を伺い、出来る限り生活に沿った寄り添うケアを実践し、ホームでの生活に慣れただくよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者本人と家族との関係を理解した上で家族の話をしっかり受け止め、双方それぞれの不安がない関係作りを心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報提供書を参考にしながら、本人・家族とそれぞれと面談を行い、現在必要とされているサービス内容を職員間で共有し、初期対応においてのサービス内容のプラン実施を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	若い頃、培ってこられた得意とされるもの(野菜作り、料理等)や仕事等の中から現在も本人から聞きだせる内容を見極め、それぞれの役割や出来る事の喜びを味わえるように努力している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お墓参りや結婚式に出かけたり、誕生会・ホーム内での行事等には家族参加を呼びかけたり、一緒に過ごす時間を持つことで家族の一員であることを本人に感じて頂き、絆を深める事が出来るように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に行われるいきいきサロンへの参加は、家族の協力を得ながら続けている。娘宅への外泊や買い物・温泉等の支援も行っている。要望に応じ行きつけの美容院の付き添いも行っている。	面会者が多い。要望で美容室や買い物・自宅訪問に同行したり、家族の協力で美容室や買い物・墓参り・温泉等に出かけている。家族の面会時にゆっくりしてもらったり、手紙や電話の取り次ぎ等で関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知度や性格を配慮した上で席を定め、利用者同士が穏やかに過ごせるように努めている。また、共同で行えるレクや生活作業に関わることでお互いに支え合える関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為に、一時支援から外れる本人を見舞ったり、家族との連絡を取りながら、退院後のフォローを続けている。退所されたご家族も継続的に訪来して下さり、相談等にも応じている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別のコミュニケーションを取ることを大切にしている（居室入浴・散歩時等） 自己発言ができない人などは表情仕草、動きのサインを見逃さないよう心がけている。 本人の訴え・対応ノートを用い職員間で共有し、本人の思いに近づけるようにしている。	管理者は毎朝利用者の手を握って挨拶、ゆっくり話すなど、その日のぬくもりの度合いから健康状態や表情などのサインを読み取り、思いや意向を把握している。職員も入浴や散歩などでのコミュニケーションを大切にしている。困難な場合は日々の観察を詳細に把握してサインの変化から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族から聴き得た生活歴や日常会話の中から情報を拾い、その人らしい暮らしが出来るように全職員が共有している。（なじみの美容院・スーパー・医療機関等）		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日を通じて、本人の身体状態を把握した上で、出来る事を行って頂いている。洗濯たたみ、料理、野菜作り等、個々が得意とする事や可能な役割を見出しケアに結びつけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族やかかりつけ医・医療看護師等の意見を参考に介護計画の見直しを毎月行っている 本人や家族の意向・希望を取り入れたプランを作成し、状況の変化に応じて、支援が行えるようにしている。	本人や家族の要望、主治医の意見を参考に職員で話し合い介護計画を作成している。毎月モニタリングしながら検討し必要時サービス内容を変更している。 年1回の更新時にアセスメントを行い状況の変化に応じて見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の状態の変化に伴う不穏時の対応等を、要望・訴えノートを設け記録を残している。 また、介護日誌を活用し、職員全体で利用者の状況を把握・共有して介護計画に沿ったケアの実践、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに沿った通院介助・外泊・買い物等の要望支援。歯科受診、往診、医療連携等柔軟な支援やサービス提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の立ち会いでの災害訓練、行事等でのボランティアの受け入れや本人の希望に応じたなじみのスーパーへの買い物支援を行っている。本人が楽しみにされている地域のいきいきサロンへの参加の送迎も予定されている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援する。受診時には心身の状況や健康面を伝え適切な医療が受けられるよう支援している。かかりつけ医の往診、歯科往診、医療機関からの医療連携体制（1/w）等も行い、利用者や家族の安心を得られるようにしている。	かかりつけ医は本人や家族の希望で法人母体の医療機関で毎日往診がある。月2回協力医療機関からの往診や月1回の歯科往診もある。眼科など専門医療機関への受診は家族対応である。必要時は家族・職員も同伴している。医療機関とは24時間医療連携体制があり適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関との契約による医療連携の訪問をとっている。看護師は利用者様の異常時や特変時には担当医に連絡し、適切な診療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には書面での必要な情報を提供して、その後についても相互の情報交換に努めている。入院中の見舞いを繰り返し行う事で状態の把握や情報を得たり退院後の生活支援がスムーズに行う事ができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期に向けた対応については、事業所の方針を説明、家族との意向も確認し、同意を得ている。利用者の病気の状態や対応については医師、家族の意見を尊重した話し合いで治療の方向性を定めていきたい。	入居時にホームの方針を説明し家族の同意を得ている。状態の変化に伴い主治医の指示のもと、家族の意見を尊重しながら方向性を共有し支援に取り組んでいる。基本的に医療行為が必要になった場合も家族の意見を尊重した支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による救命救急の研修や事故発生時の対応は社内研修で定期的に行っている。今後も必要に合わせ外部研修や勉強会を実施していきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下、昼夜想定避難訓練や講和を定期的実施している。日々の業務の中でもしもの事態に備える訓練も行っている。隣接された法人内研修等で、災害（地震・水害・津波）に向けた勉強会も行われ災害時の協力体制も出来ている災害時の水・食料も備蓄されている。	年2回の内1回は消防署立会のもと昼夜間想定避難訓練や消火訓練を行い、心肺蘇生についての講話も受けている。定期的に自主避難訓練も実施している。非常用として水・米・インスタントラーメン等を備蓄し、カセットコンロもある。隣接する医療機関との連携も取れている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションを図る時には声掛けは同じ目線、会話は笑顔で安心感を持っていただけるように心がけている。難聴のため会話が困難な人とは、実習生や関係者の入室の際も声掛けを行っている。また私物整理等は利用者と一緒に行っている。	権利と擁護・接遇についてそれぞれ年1回研修会を実施している。入職者にはオリエンテーション時に説明している。利用者の声掛けはさん付けで呼び、同性の場合は名前と呼んでいる。入浴や排泄時には職員の立ち位置を考慮し、誇りやプライバシーを尊重した支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを表すことが困難な方もおられるが、仕草や表情・状況に合わせた声掛けなどで、本人の思いや訴えを汲み取るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日を本人のペースで生活して頂きながら、一人ひとりの精神状態や体調を考慮し本人が自由に生活が出来るように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	希望に応じて、美容院に出かけたり、必要に応じて、訪問理美容サービスを行っている。行事等は、化粧などして楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外出支援(花見や海)に出かけ、見慣れた景色や自然の中で、弁当を食べる事が行事に予定されている。ボランティアによる料理教室も開催されお菓子作りも楽しまれている。漬物作りやツワや筍などの皮むきを楽しんだ後にすぐに調理を行い食卓に上がり喜ばれている。お誕生日の献立は、利用者や家に尋ね好物を提供している。敬老会や母の日等のイベントの時はバイキング料理を行い、本人が選ぶという楽しみも味わって頂いている。	献立は職員が栄養士の助言を得て作成している。玄関両サイドに菜園が有り旬の野菜やスイカなども収穫し美味しく食している。下準備のつわの皮むきや下膳・茶碗洗いなど、利用者の力を活かしながら職員と一緒にしている。行事食・誕生食・中庭でのバーベキュー・バイキングなど、食事が楽しみとなっている。保存食作りやボランティアによる料理教室でお菓子作りも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量、食事量を記録に残し、一人ひとりにあった食事形態と栄養状態に応じた食事を提供し、体重の増減にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行い、入居者の状態に合わせ、見守り、一部介助を行っている。ケアの拒否があった場合、時間を置いて再度声け等の工夫を行っている。義歯は、夜間洗浄し清潔を保っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレの場所が解かるように目印をつけ、個々の排泄パターン(チェック表)や時間帯での誘導声かけを行って、排泄の失敗を少なくし、精神面への配慮を行っている。昼間は、オムツから紙パンツ使用に変えることで快適に過ごせるよう自立支援につなげている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。布パンツ・リハビリパンツ・パット・おむつと個々に応じた排泄支援をしている。失禁時は、精神面を配慮してさりげなく支援している。夜間はポータブルトイレやおむつの支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターン(チェック表)や時間帯での誘導、声かけを行っている。便秘予防の為には水分・野菜をしっかり摂取しながら軽体操を行い、予防に取り組んでいる。便秘が続いている場合には、腹部マッサージを施行している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴が、スムーズに行えるように、童謡が好きな利用者とは一緒に歌ったり、会話を好む方とは、ゆっくりとコミュニケーションを図り、個々に合わせて入浴楽しめる場となるように工夫している。また入浴中での健康管理の為に入浴前後には、水分補給も行っている。季節に応じ春は菖蒲湯、秋にはゆず湯を用意し、昔からの風習にも配慮している。	季節に応じて週2～3回、入浴やシャワー浴を行っている。1:1介助でコミュニケーションを大事にしながら入浴支援をしている。季節に応じて菖蒲湯やゆず湯を楽しんでいる。入浴拒否がある場合は、歌を歌うなど状況変化を工夫することで入浴支援につなげている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している	心地よい休息をとって頂くため に、室温・湿度調整や明るさ、 音に配慮している。入床までは 会話やテレビを見て頂いたり、 好きな事をして過ごして頂いて いる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる	個々の薬の整理、仕分けを行っ たり、処方の変更があった場合 は申し送り時に全職員が把握で きるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活暦や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	洗濯たたみや料理の下ごしらえ また野菜を作ったり、裁縫など 行うことで、生きがいのある生 活が送れるように支援している また、生活を楽しむ工夫（お茶 時の談話やレクリエーション） を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう に支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	日光浴や地域周辺散歩を行い、 季節、景色、隣人との会話を 楽しめるように支援している。 家族の協力のもと、法事や冠 婚葬祭、外食・外泊支援も行っ ている。施設行事として初詣・ 花見・ショッピング等 体調、 安全面を配慮した上で毎年計画 されている。	日常的には散歩やドライブなど 戸外に出かけられるように支 援している。年間計画に沿って 初詣・花見・夏祭り・運動会・ ショッピングへ出かけている。 家族の協力を得て、外食・外 泊・買い物・冠婚葬祭への出 席などの支援も行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時に、家族の了解を得て必要に応じお金を預かっています。本人が管理が出来る方は財布を所持し要望に応じ買い物支援を行い、家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の要望に応じて、いつでも電話がかけられるように体制作りをしている。また、贈り物のお礼の際は、本人にも電話でお礼をしていただくようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆっくりと休めるソファを設置し明るく、清潔で異臭のない空間作りや音、明るさ、湿度にも配慮している。ホールには季節の花を飾り、また四季の移り変わりを感じる壁面を入居者と一緒に作っている。台所からは、食事を作っている光景や音・匂いが伝わり生活感のある空間となるように工夫している。	共用空間は清潔で、採光や温度・湿度に配慮し空気清浄機が設置されている。中庭には苺の鉢植えや旬の野菜が栽培されている。玄関には季節の花が活けてあり、壁面は利用者と職員合作の手作り桜などが掲示している。対面式のキッチンからは匂いや音が聞こえ、ソファでゆっくり過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットの間に光庭があり、窓越しにひなたぼっこをしたり、季節の花や野菜を見たりして、空間を楽しんでいる。また、ホールでは、雑誌を読んだり、ソファにてテレビを見たりして、一人での時間をゆっくり寛げるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	目が届く場所に着慣れた洋服を掛け、化粧品・使い慣れた家具や家族写真など、なじみの品物を持ち込んで頂き、本人の生活パターンに応じた居室作りを行っている。 また、部屋の装飾や家具の位置等にも気を配り、家族等の面会時にもゆっくりと寛げる清潔感のある居心地の良い居室作りを工夫している。	居室にはベット、机とイス、エアコン、タンスなどが設置され寝具類は持ち込みとなっているスタンドタイプの洋服掛けや家族の写真、読み物、位牌や遺影などが持ち込まれ、家具の配置もそれぞれで居心地よく過ごせる空間が確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は安心して移動ができるように手すりを設置し、また車椅子の自力走行は、安全面に配慮した導線や環境整備に努めている。トイレ・居室は目印で本人が場所の確認が出来るように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない